



2014年10月1日発行 第222号
(毎月1回発行)

発行 埼玉県社会保障推進協議会

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-12-8
自治労連会館1階

電話048-865-0473 fax048-865-0483

(ホームページは「埼玉社保協」と検索下さい)

「いのち・暮らしを守れ—安全・安心の医療・介護を実現する大運動」 中央社保協が国民的大闘争を呼びかけ



中央社保協は9月23日、東京で「安全・安心の医療・介護を実現するシンポ」を開き、全国から220人が参加しました。「いのち・暮らしを守れ—安全・安心の医療・介護を実現する大運動」(医療・介護大運動)のスタート集会です。

国民的な大闘争が呼びかけられました。

「税と社会保障の一体改革」に基づいて、“自己責任”と“営利化”を基調にした社会保障の大改悪攻撃が全面展開されています。生活保護と年金の削減で生存権の水準(いのちの基準)を切り下げが、先行されました。

医療と介護の費用抑制を目的とする医療・介護総合法では、国の責任を棚上げし、社会保障を地方自治体と住民の“自己責任”にしようとしています。国保を市町村から取り上げ、都道府県に移す動きも医療費抑制策の一環です。医療保険と介護保険の給付範囲をせばめ、あとは民間企業にまかせる医療・介護の営利化をすすめようとしています。

小泉「構造改革」を質的にも超えた“社会保障解体攻撃”です。

今こそ社保協運動の出番の情勢です。「社会保障解体は許さない! 憲法を全面的にいかして社会保障の充実を」という世論と運動を広げ、総反撃を開始する時です。社会保障の解体を許さないために、「医療・介護大運動」に総力を結集して、国民的な大闘争へと発展させていきます。

網の目のように学習会を開催し、運動の担い手づくりをすすめます。

かつてなかったような社会保障への全面攻撃に反撃するためには、腰のすわったたたかいを構築する必要があります。その土台づくりを、学習リーフを使った網の目学習会ですすすめます。

中央社保協の学習リーフを積極的に注文して下さい。

新しい全国統一署名で、地域・職場から世論づくりをすすめます。

「憲法を生かして安全・安心の医療・介護の実現を求める国会請願署名」を軸に、地域・職場から「社会保障を守れ」の世論を構築していきます。

自治体への働きかけを一層強めます。

医療費の抑制を目的にした入院ベッドの削減や国保の都道府県単位化も、介護サービスの縮小や切り捨ても、県と市町村に押しつけられます。自治体はどう踏ん張るか、ここがポイントになっています。

自治体への働きかけを強め、医療・介護の改悪にブレーキをかけていきます。

県議会・市町村議会にはさまざまな請願を提出し、たたかいの高揚のなかで、いっせい地方選挙・県知事選を迎えましょう。

地域・職場から世論を高め、中央に攻めのぼっていきます。

中央社保協や全労連などの中央集会や、国会行動に積極的に参加していきます。

第23回埼玉社保協総会を開催します。

日程 12月14(日)10:00~16:00

会場 さいたま共済会館601

記念講演は、決まり次第お知らせします。

元気な高齢者が富山に集結

日本高齢者大会に参加して



元気な高齢者が富山に集まりました。1日目は富山大学会場の23分科会、移動分科会4、夜の交流会5で貴重な報告、熱心な討論が行われました。2日目は富山市総合体育館で全体会が開かれました。全国から列車で、バスで、地元の富山県を含めて5,365名が参加しました。埼玉県からは年金者組合、医療生協が中心になって45名のべ97名が参加しました。

「憲法を暮らしに生かし、みんなか輝く社会、平和な日本を」「まちから村からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう」をテーマに、分科会では「医療介護をめぐる情勢と課題」「ひとりぼっちをなくす多様なまちづくり」「年金削減を許さず誰もが安心できる年金制度に」「これでいいのか生活保護」など安倍政権の進める社会保障崩壊の現状と高齢者が、国民がどう対決するのか、同時に「原発即時廃止」「集団的自衛権の真実、日本国憲法と日米安保の問題点」「辺野古の海にも陸にも基地は要らない」など、平和を守るために私たちは何をすべきかを討論しました。

2日目の全体会では、歓迎の挨拶、実行委員長の挨拶の後、全体会の基調報告が行われました。鐘ヶ江事務局長は高齢者大会が果たしてきた歴史的な意義を踏まえ、いま私たちの課題として「海外で戦争する国へ突き進む政治と平和を望む国民運動の広がり」「被災者が希望の持てる震災復興と原発ゼロへ」「高齢者の生きる希望を奪う社会保障政策の現状」「高齢者をひとりぼっちにしないまちづくりのとりくみを強める」「高齢者の切実で具体的な要望をまとめ自治体との協議を進める」などの情勢と運動の基調を報告しました。

記念講演ではエッセイスト、世界平和アピール7人委員会の池田香代子さんから「平和な未来をきずく100人の村、あなたもここに生きます」と題して「1億総中流ははるか昔、人権も、憲法に謳われて

いることが実現していない今の日本は世界から尊敬されない国です。尊敬される国になるため、経済的に豊かで格差が小さい、人々が長生き、自然を大切に、人権が守られる、子どもが賢い、困っている国に手を差し伸べる、技術力が高い、治安がいい。」8項目を挙げ話されたことに共感し、大きな拍手が沸きました。

来年は和歌山県です。

(埼玉県参加者代表団長 斎藤 健)

障害者権利条約の水準を地域のすみずみに

2014年1月20日、日本政府は障害者権利条約をようやく批准し、2月19日発行した。

障害者権利条約は国連9番目の権利条約として、2006年12月に国連総会で採択され、障害のある人も他の市民と同等の権利を有していること、その権利を履行するうえで特別な困難があり、特別なニーズ、支援が必要な人々であるとしています。すでに130カ国あまりが批准していましたが、日本では障害者団体からも批准のまえに、障害のために必要な福祉を受益ととらえ負担を強いる「障害者自立支援法」など、障害者権利条約の内容に反する障害者制度改革を求める声が強く出されていました。残念ながら、政権が代わり、障害者制度改革は頓挫してしまいましたが、それだけに、障害者権利条約を武器にして、日本の障害のある人、家族の置かれている実態を浮き彫りにし、障害者権利条約の水準、内容からとりくんでいく絶好の機会にしていきたいものです。



障害者分野でも、障害のある人の暮らしは家族の介護に支えられているのが実態です。

障害当事者が30代、40代となれば親は60代、70代となり、生活面全般の介護、支援をしており、どちらかが具合が悪くなれば、生活自体が成り立たない状況におかれている家族も少なくありません。家族に代わるグループホームも少なく、費用負担も本人の年金、工賃だけではやっとの状況です。

障害があっても当たり前前に働き、暮らしていける地域、社会の実現させるために、障害者権利条約の内容をしっかりと学んでいかなければと思っています。

(富士見市社会保障をよくする会ニュースN0, 104号より抜粋・細野 浩一)

今後の地域での取り組みが重要 「改正」介護保険学習会



9月28日午後、埼玉教育会館で「改正」介護保険学習会を埼玉社保協と埼玉労連の主催でおこないました。参加者は、埼玉社保協の加盟団体、埼玉労連の加盟組合以外にも、介護保険に関心のある市民や介護事業者から130人の参加がありました。

学習会の報告は、2本あり最初に埼玉県福祉部高齢介護課主幹の白土尚夫さんから「これからの介護保険はどう変わるか」の話がありました。白土さんは、「2000年の介護保険制度実施以降、『介護保険にお世話になるのは恥』『見知らぬ人を家に上げるのはイヤ』などの制度利用を拒む人は減り、保険制度の活用が進んできた。反面、高齢化が進むなかで、介護保険制度の財政は膨らんでいる。今度の改正は、サービスの充実と重点化・効率化を進めるものです。そのために、重度な要介護状態となっても住み続けられるよう「地域包括ケアシステム」を構築する。サービス内容では、介護予防給付の対象者であった要支援1・2のほとんどの人は、新しい介護予防・日常生活支援総合事業を利用することになる。特別養護老人ホーム利用者は、要介護3以上の人の利用に絞られる」などの制度変更点が報告されました。会場からは、「地域支援事業」にボランティアなどが組み込まれるが、どのように変更されていくか心配との声が出されました。

2本目の報告は、全日本民主医療機関連合会事務局次長の林泰則さんで、「どうなる・どうする介護保険～介護の社会化をめざして」として、今度の改正で「①要支援1・2の介護給付の見直し（強制退学）、②一定以上所得の利用料を2割に引き上げ、③特養の利用者は重度者に限定、④補給給付の用件の見直し、⑤低所得者の保険料軽減強化」がおこなわれるが、国の責任を縮小し、自己責任とする制度への大転換を図るものと説明が

ありました。

参加者からは、「ふたりの話、そして資料の見やすさ参考になりました。地域ボランティアを使うとお金がかかることもわかりました。自治体の動きをよく見聞きするの必要を感じました。」など、今後の地域での取り組みが重要という意見が多数寄せられました。

(埼玉労連 船橋 初恵)

初めての「何でも相談会」

上尾社会保障をよくする会

9月6日に“仕事の悩み・くらしの悩み どなたでもお気軽にご相談ください”と呼びかけて初めての「何でも相談会」を開催しました。



相談会当日は年金問題や「生活保護を利用したいと市役所に行ったが、断られて困っている。どうしたらいいでしょう」「軽い認知症のある両親が介護保険を利用しているが、経済的に大変」「生活保護を受けているが、灯油代が減額されて困っている。体調も悪くて毎日が不安」等、寄せられた相談は、5件でした。相談を担当したのは、労働組合、民主団体、日本共産党の市議員の方々に、丁寧な対応と経験の深さに支えられた相談会でした。

来年も第2回目「相談会」を開催する予定です。
(上尾社会保障をよくする会 岩本孝子)

岩手で第42回中央社保学校



第42回中央社保学校は9月25日～27日、岩手県花巻温泉で開催されました。初日の講演は「ヤスクニイズム・アベノミクスと憲法・社会保障」(東北大学名誉教授の日野秀逸さん)、「国保の歴史と都道府県単位化」(津市立三重短期大学教授の長友薫輝さん)。2日目はバスに乗って震災地視察と旧沢内村視察の2コースと、「社会保障入門講座」の3本立て。入門講座の講師は、埼玉社保協副会長の原富悟さん、年金実務センター代表の公文昭夫さんでした。

3日目は被災地で活動している仲間から、保育と医療分野での報告があり、都留文科大学名誉教授の後藤道夫さんの「広がり深刻化する貧困と、社会保障運動への期待」について講演がありました。

秋からの大運動を前に、熱のある学習会になりました。

やわらばと や 社保協と

今後の会議日程

第3回常任委員会

日時 11月28日(金) 14時
会場 埼玉会館6B

第97回運営委員会

日時 12月4日(木) 14時
会場 自治労連3F会議室

埼玉障害者まつり

10月12日(日)

9:30~15:00

埼玉県障害者交流センター
参加費は無料です



年金者一揆

10月17日(金)

12:30開会

日比谷野外音楽堂



「いのちまもる10・23国民集会」

10月23日(木)

12:30~16:30

日比谷野外音楽堂
集会後、国会請願デモ



県政要求共同行動

11月7日(金)

埼玉会館

10時から全体会

13時15分から県要請



埼玉高齢者大会

11月17日(月)

10:00開会

川越市民会館



働く女性の埼玉集会

11月23日(日)

10:00~15:30

さいたま共済会館

参加費 500円

